中山間地域における介護サービスの利用変化類型と地域特性との関連

○日本福祉大学 地域ケア研究推進センター　斉藤雅茂（会員番号　２２４０）
日本福祉大学　平野隆之（会員番号　３２０）
日本福祉大学 地域ケア研究推進センター　奥田佑子（会員番号　１８２６）

１．研究の目的

過疎化と高齢化が極端に進行した中山間地域では、その採算性の低さから介護サービス事業所の参入が少なく、在宅介護サービス基盤の脆弱さと施設依存の高さが指摘されている。本研究では、中山間地域の１保険者において要介護高齢者が利用している介護サービスの組み合わせ（サービス・パッケージ）の経年的な変化を把握し、地域特性による介護サービス利用の相違と課題を検討した。

２．方　　法

高知県Ａ町において、高知県国民健康保険団体連合会の「保険者向け給付実績情報（1110000.csv）」と保険者の「介護保険認定データ」に基づいて、2006 年 4 月から 2009 年 8 月まで（44 ヶ月間）の介護給付の実績を収集した。データ収集に際しては、日本福祉大学福祉政策評価センターの「マスキングソフト」と「給付分析ソフト 2008」を用いた。ここでは，時点を半年ごと（8 時点）に区切り、2006 年 4 月時点で介護サービスを利用していた 224 名について分析した。本分析では、クラスター分析（Ward 法、平方ユークリッド距離）を用いて、個々人の各時点でのサービス・パッケージ（訪問系のみ、通所系のみ、訪問系＋通所系等、施設、入院、未利用、死亡・転出の７カテゴリー）の主要な変化を類型化した。その上で、主要な変化パターンと居住地域、および、介護費用との関連を分析した。居住地域については、行政職員の協力を得て、当該地域を「平野部」「中間」「山間部」に分類した。

３．結　　果

分析の結果、当該地域における介護サービス利用者の３年半の主要な変化は、既入所死亡型、施設移行死亡型、施設継続型、施設移行型、在宅継続型という５類型に整理された。居住地域との関連においては、平野部や中間地域では、「在宅継続型」と「施設移行死亡型」がやや多く、山間部では「施設継続型」と「施設移行型」がやや多い傾向にあることが示唆された。また、類型別に各時点での介護費用総額をみると、施設移行型と在宅継続型は時間の経過につれて増額傾向にあるものの、施設継続型の費用が圧倒的に高いことが確認された。

地域特性とサービス利用変化類型　（値は%）

	平野部 (n=158)	中　間 (n=49)	山間部 (n=12)	全　体 (n=219)
既入所死亡型	13.3	16.3	8.3	13.7
施設移行死亡型	22.2	24.5	16.7	22.4
施設継続型	25.9	22.4	33.3	25.6
施設移行型	13.9	18.4	41.7	16.4
在宅継続型	24.7	18.4	0.0	21.9
合　計	100.0	100.0	100.0	100.0

４．結　　論

県内全域が中山間地域に該当する高知県のなかでも、居住地域によって利用できる介護サービスの資源が異なるため、経年的にみた個々人の利用変化においても地域間で相違があることが示唆された。とりわけ、保険者の介護費用の膨張を検討する際には、山間部で比較的多い「施設継続型」への対応が重要であり、そうした地域での在宅介護サービスの基盤整備の必要性が改めて確認されたといえる。

なお，本データの収集および加工作業は、研究メンバーの藤田欽也（日本福祉大学福祉政策評価センター）氏が行った。